

広郷土史研究会

会報

第87号

事務局 呉市広公民館内
〒737-0706 広古新開2丁目1-4
電話 71-0706 FAX 73-5304
発行 平成20年9月1日
広郷土史研究会編集委員会

昭和14年夏の旱魃渇水時 水越の川底を掘る



昭和14年の夏は例年に無い小雨で稲作が出来ないほどの大旱魃になった。

第3水利組合では同年7月ころから広東大川の水越の川底を300人以上で掘り下げポンプで水を汲み上げ新開に水を供給していたが、9月ころにはとうとう川底を4段(6m)まで掘り進む結果となった。これがその時の写真である。

写真背後が大歳神社鎮守(弁天社)の山で後部に国道と弁天橋がかすかに確認できる。

(写真提供 広吉松 上田 良秋 氏)

目次

広村甘藍(キャベツ)栽培の普及と広園芸出荷組合

祖父・玉木伊之吉の思い出

郷土 広の発展を夢見て

中新開・吉松 区画整理事業の概要(図面画像処理)

例会報告

浜本 美智子・・・2頁

杉岡 護・・・7頁

賀谷 剛三・・・10頁

吉田 顕治・・・14頁

広村甘藍栽培の普及と広園芸出荷組合

祖父・玉木伊之吉の思い出

浜本 美智子

はじめに

広園芸出荷組合・組合長の「玉木伊之吉」は私の祖父にあたります。明治時代から祖父は広村大新開などの新開地で甘藍（キャベツ）を栽培し品種改良に努め良質の甘藍を作り安定的に出荷をするため大正8年に「広園芸出荷組合」を組織し組合長に推されて栽培に関し指導的役割をはたしておりました。そのためか当家には甘藍に関する資料が多少残っております。

私が生まれる以前から幼少の頃までのことなので甘藍栽培に付いての知識は皆無に近いのですが、祖父の残した「褒状・謝状・写真」等の資料と以前母から聞いていた話等により明治期以降の「甘藍」栽培の状況が多少とも解明できればと思い、今回この資料を公表しようと思いたちました。これで少しでも郷土「広町」の歴史解明に役立てば幸いです。

広甘藍栽培の興り

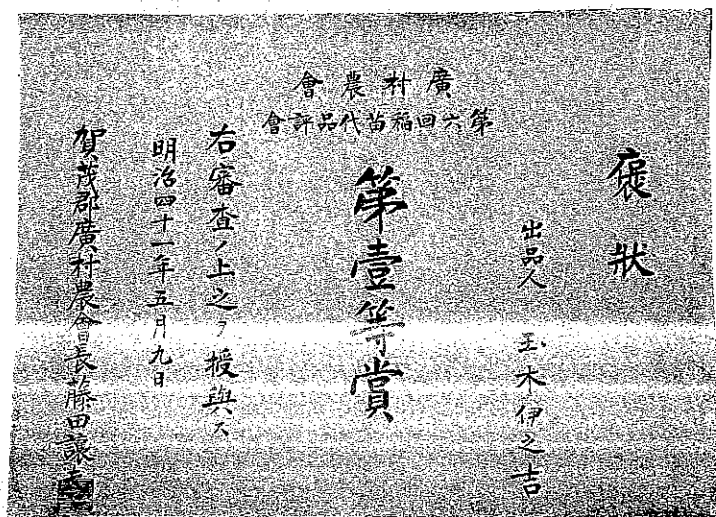
広甘藍栽培のルーツは当会「会報第84号」を見て始めて知りました。そこに記されていた「矢口一美」氏の内容を要約すると次のようになります。

記

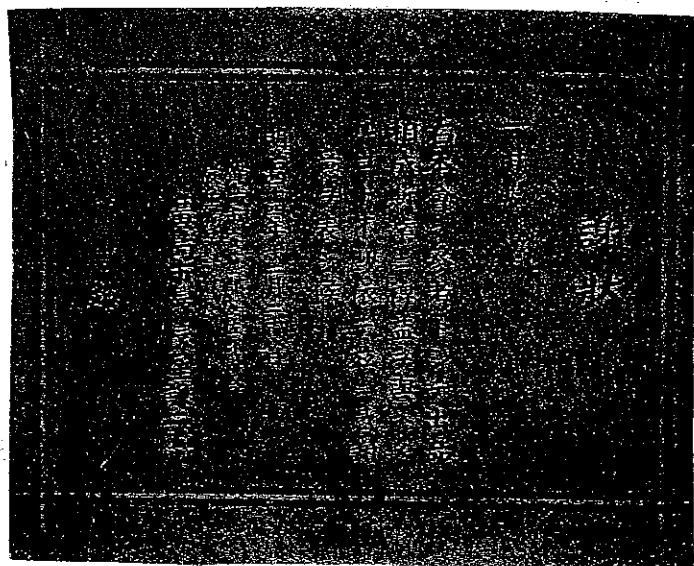
広村は明治17年の台風で新開の堤防が悉く破壊され400町歩の耕地が1mの海水に浸かり農地が壊滅的な被害を受け堤防は同年12月には修復されましたが、塩抜きに手間取り米作が全く出来ず明治18年には広村民が飢えに苦しむ状態で、戸長役場が破綻するよう



晩年の
玉木伊之吉 翁



(資料1) 明治41年広村稲苗代品評会「褒状」



(資料2) 明治44年甘藍及葱「謝状」

な状況に陥りました。

このとき米国カルホルニアに明治の初めに移住していた大新開在住の「矢口亥之吉」氏によって塩に強いキャベツの種が実家に送られて来たのをきっかけに矢口家の柵内田にて栽培が始まって、多少塩気がある広村新開でも良く育つことが分かり、またたく間に普及したようです。

これと相前後するように隣町の呉市に海軍呉工廠が開設（明治22年）され近郊作物の需要が高まり呉工廠に大量に納入されるようになりました。

ゆえにこの甘藍は広村新開再興の救世主になった訳です。

甘藍の品種改良

甘藍の種は栽培農家が勝手に採集してはいけない取り決めがなされておりました。種を採集する場合は農家が畑に甘藍を栽培している中から飛び抜けて形の良い甘藍を見つけ世話の方が、種を取るだけの別の菜園に移植して来年植える種を採集し、これを各農家に毎年配布して、この種から甘藍を栽培しておりました。こうすることによって広村の甘藍は全国的に誇れる立派な品種の甘藍になって行った訳です。

広甘藍広島市等の品評会へ出品

明治44年に「甘藍及葱」を広島市・安芸郡・安佐郡の聯合農産物品評会に出品して謝状を得ております。（資料2参照）

明治後期には全村的に甘藍が栽培されて品種改良も進み品評会で謝状を受けるほどになっていたようです。

大正元年には第3回「賀茂郡園芸品評会」で壹等賞を得ておりますのでこのころには甘



（写真1）地方より甘藍視察を受け
広園芸出荷組合第2作業所前にての記念写真



（写真2）広大新開 甘藍畑での記念写真



（資料3）大正元年甘藍「壹等賞・證」

藍の品種改良はかなり進んでいたと思われま
す。(資料3参照)

大正末期から昭和初期ころでしょうか他県
より多くの方が広甘藍栽培と出荷組合の活動
を視察に当村を訪れております。その時「広
園芸出荷組合第二作業所」前と大新開の甘藍
畑にて撮影された写真が残っております。

(写真1・2参照)

この写真をみますと大新開は一面甘藍畑で付
近には建物等が見られない大平原の体をなし
ております。この「広園芸出荷組合第二作業
所」の場所は両谷船津神社鳥居前の参道の東
側にありました。

天皇と皇后陛下に甘藍を献上

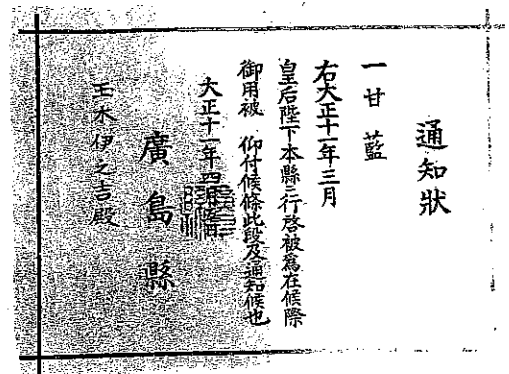
大正11年3月に大正天皇陛下の御后、
皇后陛下が広島県に行幸された時に広島県よ
り甘藍を献上するよう御達しがあり献上して
おります。(資料4参照)

次に昭和5年10月に昭和天皇陛下が江田
島の海軍兵学校に行幸された時にも広島県よ
り甘藍献上の御達しがあり献上しております。
この時には同日付けの「謝状・甘藍」も残っ
ております。(資料5・6参照)

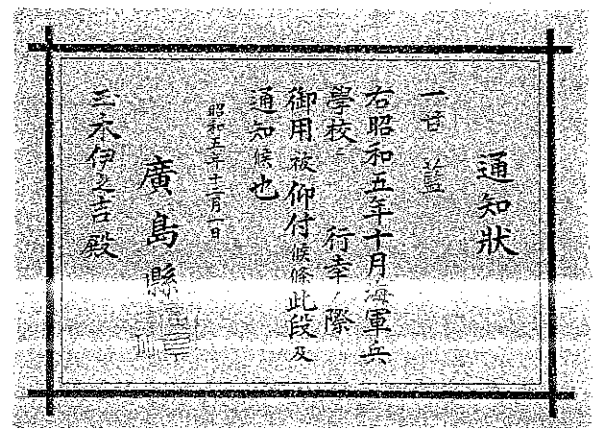
我が家では陛下に献上する甘藍の栽培は
「畑の四方に竹をたてて注連縄を廻してこの
中を神聖な空間とし、肥料にも下肥を一切施
さず丁寧に栽培した」そうです。その様子が
この写真で、中央で立って写っているのが祖
父本人です。(写真3参照)

広甘藍、東京市場に出荷

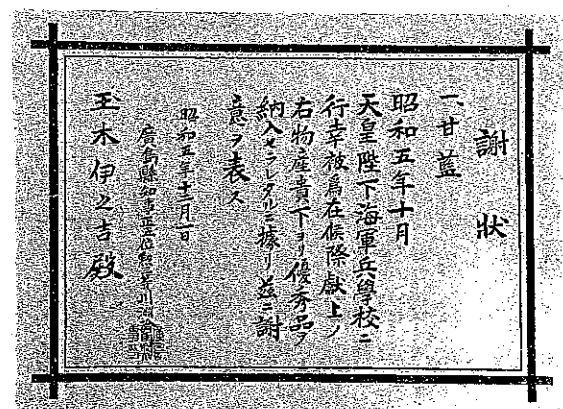
大量に増産された広甘藍は昭和7年には東
京青果市場へも出荷されるようになり昭和12
年には販売統制の事業にも貢献したことによ
り「東京中央青果株式会社・中央青果卸売株



(資料4) 大正11年 皇后陛下甘藍「通知状」



(資料5) 昭和5年 天皇陛下甘藍「通知状」



(資料6) 昭和5年 天皇陛下甘藍「謝状」

式会社・東京青果株式会社・神田青果株式会社
 社・江東市場協調会・東京荏原青果株式会社
 ・豊島青果株式会社」の7社の連名によって
 広園芸出荷組合は感謝状を受け、(資料8参照)
 玉木伊之吉は表彰状を頂いています。

(資料9参照)

最後に昭和13年には広村会議員・区長・
 水利組合議員・産業調査員等の公職に付き
 広村自治の発展に貢献したことにより森岡多
 吉村長より表彰されております。

(資料10参照)

おわりに

私の祖父玉木伊之吉の残した「資料・写真」
 によって郷土の明治・大正・昭和期の歴史が
 多少とも解明できればと思ひ簡単ではありま
 すが筆を執りました。何かの参考にして頂け
 れば幸いです。

また広甘藍がここまで有名になりましたの
 は当時の農家の方々の様々な御協力があつて
 のことと思ひます。

最後に、関連資料をお持ちの方がございま
 したらご意見と共に事務局までお寄せ下さい
 とのことでした。宜しくお願い致します。

感謝状

玉木伊之吉殿

君資性温厚ニシテ篤農ノ士ナリ早ヨ
 リ農家經濟ノ助長ヲ圖ルハ共同ノ
 カニ依ラザルベカラザルヲ力説シ同志ヲ勸
 誘シテ大正八年園藝組合ヲ組織ス
 レ推サレテ組合長トシテ爾來精神
 誠意身ヲ挺シテ各管ニ組合發展ノ
 爲ニ努力セラレ組合員ノ利益ヲ所誠ニ
 甚大ナリ其ノ功勞ヲ報ルニ爲組合員等
 決議依テ徳大録堂野ノ贈シテ御力感
 謝ノ意ヲ表ス

昭和八年

中央園藝組合

(資料7) 昭和8年 中央園芸組合「感謝状」
 玉木伊之吉大正8年「広園芸組合」
 を組織し組合長に就任する。

感謝状

廣甘藍ノ生産並販賣ニ關シ
 其ノ業績彌々顯著ニシテ寔ニ
 他ノ模範トスル所ナリ仍テ柱時計
 壹箇ヲ贈呈シテ感謝ノ意ヲ表ス

昭和十二年十一月一日

東京中央青果株式会社
 東京青果卸賣株式会社
 東京青果株式会社
 神田青果株式会社
 江東市場協調会
 東京荏原青果株式会社
 豊島青果株式会社

廣園芸出荷組合殿

(資料8) 昭和12年 広甘藍東京市場出荷
 広園芸出荷組合「感謝状」を得る。

表彰状

廣園芸出荷組合長
 玉木伊之吉

右ハ多年廣甘藍ノ改良發達並販賣
 統制ノ事業ニ盡瘁シ其功績定ニ顯著
 ナリ仍テ今回東京市場出荷満五周
 年ヲ迎ヘルニ當リ茲ニ記念品ヲ贈呈シ
 其功勞ヲ表彰ス

昭和十二年十一月一日

東京中央青果株式会社
 東京青果卸賣株式会社
 東京青果株式会社
 神田青果株式会社
 江東市場協調会
 東京荏原青果株式会社
 豊島青果株式会社

表彰状

玉木伊之吉君

資性温厚篤實ニシテ最モ公心富公風ニ父祖
 ノ業ヲ継キテ農事改良發達ニ努メ且本村ノ會
 議員區長水利組合職員産業調査員等ノ公
 職ニ就キテ自治開發ニ貢献スル所アリ又區民教育
 耕作進ヲ改修シテ蔬菜促成栽培並肥料種圃設置
 肥料共同購入等ノ勸奨シテ廣園芸出荷組合組織
 シ之ヲ組合長推シテ親任共進ニ努メ且出品規
 制並販賣振振音聞ノ先ヲ期シテ其功績著ク
 ノ事免カズ今固ヨリ其功績ニシテ表彰ス
 發給シ寄附シタル及領洵多クナリ此ノ由
 持此壹箇ヲ贈シテ之ヲ表彰ス

昭和十三年三月十日

廣村多吉村長

(資料10) 昭和13年 玉木伊之吉 広村長より
 自治の開発に貢献を認められ「表彰状」を受ける。

(資料9) 昭和12年 玉木伊之吉東京市場
 より甘藍納入により「表彰状」を受ける。

広村「甘藍」関係年表

西暦	和暦	月日	記事	宛名
1866	慶応2年		玉木伊之吉、広村で生まれる。	
1908	明治41年	5月9日	「褒状」第6回稲苗代品評会で第壹等賞を得る。 (広村農会長藤田譲夫より)	玉木伊之吉
1911	明治44年	12月28日	「甘藍及葱」広島市安芸郡安佐郡聯合農産物品評会 へ出品し謝状を得る。(広島市長長屋謙二より)	玉木伊之吉
1912	大正元年	12月20日	「甘藍」第3回賀茂郡園芸品評会で壹等賞を得る。 (広島県農会長中村純九郎より)	玉木伊之吉
1919	大正8年		広園芸組合を組織し玉木伊之吉組合長となる。	
1922	大正11年	4月5日	「甘藍」大正11年3月皇后陛下本県に行啓の際 御用を仰せ付けられる。(広島県より)	玉木伊之吉
1930	昭和5年	12月1日	「謝状・甘藍」昭和5年10月天皇陛下海軍兵学校に 行幸時右品を献上し謝状を得る。(広島県知事より)	玉木伊之吉
1930	昭和5年	12月1日	「甘藍」昭和5年10月海軍兵学校に行幸の際御用を 仰せ付けられる。(広島県より)	玉木伊之吉
1932	昭和7年		「広甘藍」東京青果市場へ納入を開始する。	
1933	昭和8年	2月11日	大正8年園芸組合を組織し組合長に任じられ 組合発展に努力した功により感謝状を得る。 (中央園芸組合より)	玉木伊之吉
1937	昭和12年	10月1日	広甘藍の生産販売に業績を上げたことにより 感謝状を得る。(東京中央青果株式会社他6社より)	広園芸出荷組合
1937	昭和12年	10月1日	「広甘藍」改良・販売統制の事業に功績にて 表彰状を得る。(東京中央青果株式会社他6社より)	玉木伊之吉
1938	昭和13年	5月22日	広村会議員・区長・水利組合議員・産業調査員 等の公職に付き自治の開発に貢献し表彰される。 (広村長森岡多吉より)	玉木伊之吉
1957	昭和32年		玉木伊之吉、没。	



(写真3) 天皇陛下に献上する甘藍の栽培風景

四方に竹を差し注連縄(しめなわ)を張った中で下肥を施さず栽培した。